



売上4割増!

高さのある見せ場を設けてレジにワンクッション。花が増えたように見える after←←←

←←←before 正面にレジがあり、緊張感が。花の量は少なく見える

気軽に花を買い  
コラボを楽しめる花屋に

「花カフェ」は、2016年10月にオープン。東原秋子さんが、「若い人がカフェのようにふらっと入れて、新しい情報も得られる花屋を末吉町にも」と開いた店で、花の柔らかな色と香りに心寛く空間です。

様々な悩みに直面した1年。中でも難しかったのは、ターゲットに十分に合わせた店作りがでず、「次第に事業計画書のコンセプト

無料の経営相談所  
**鹿児島県**  
**よろず**  
**支援拠点**  
**NEWS**

「ブトと店とがズレてきたこと」でした。年配のお客様の求めに応じて墓花や苗を揃えたり、マダム風のお客様に高価な花を求められ、背伸びをして提供したりして、「自分でも方向性がわからなくなり、都合のいい花屋になってしまっていた」と東原さん。生花は1週間と持たない命です。充実させたいが需要の見込みは難しく、初心者にとって仕入先の確保や量も難問でした。  
創業1年を機に、事業計画作成や鹿児島県起業家スタートアップ支援事業への応募

したディスプレイに一新し、花の視覚的ボリューム感も増しました。これに驚いたのは東原さんです。以前は、ラッピングの出来上りだけを待ただったお客様が、店内を見て回るように。お客様とほどよい距離ができて、自分の世界を楽しんでもらえるようになったのです。効果は売上にも反映しました。  
現在、SNS発信の強化や育て方などの情報提供、カフェコーナーの充実も進行中。花カフェの花を贈られた人が他の人へ贈る、嬉しいリレーも現れ始めています。

を支援したよろず支援拠点に再び相談することになりました。  
東原さんは、コーディネートと話す中で、創業時の思いを再確認。30〜40代を中心とした層が、雑貨を楽しむように気軽に花を買える店にしたいこと。マルシェや、花と音楽やアートなどをコラボさせたワークショップをして、花のある暮らしの世界を広げたいと心新たにしましたのです。  
そのステージとしてよろず支援拠点では、店舗改善も支援。お客様の心理と動線に配慮



特別な気持ちや飾りをつけてくれる花  
ひとりひとりに送る気持ちです

東原秋子代表



カフェコーナーにはドライ物を集めてセンスアップ



入口近くには、導入となるようグリーン類を集めた

花カフェ

曾於市末吉町諏訪方8377-3  
tel.0986・51・8757

(公財)かごしま産業支援センター **鹿児島県よろず支援拠点**

CC:加藤剛/SCC:山之江清子/C:向江隆行・森史憲・堂免正志・小平田貴子・鎌田香・松田貴志・新地美沙・森恵

tel.099・219・3740 ✉ yorozu@kric.or.jp

鹿児島市名山町9番1号(産業会館1階)/FAX.099・223・7117/営業時間 平日8:30~午後5:15

